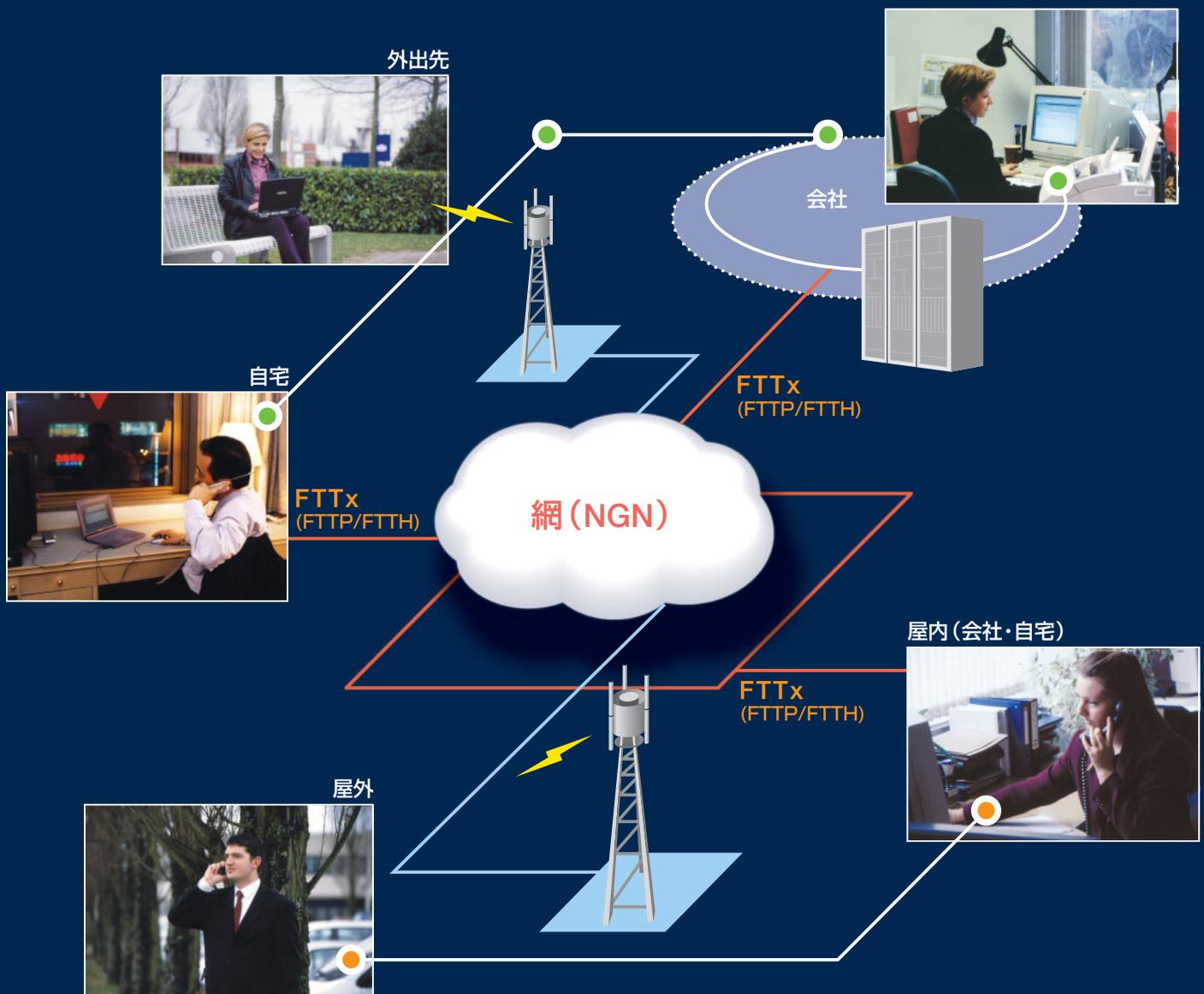


BUILDING NEXT GENERATION NETWORKS

アンリツグループは、IP技術をベースに固定通信網と移動通信網が融合する次世代ネットワーク(NGN)に向けて、アンリツの技術力を駆使したさまざまなソリューションを提供していきます。



デジタルワイヤレス通信への計測ソリューション

アンリツは、携帯端末、携帯インフラ、無線LAN、WiMAX、デジタル放送など、進化するワイヤレスネットワークを支える計測ソリューションを提供しています。

通信サービスは、音声通話から始まり、インターネットや電子メールの登場、さらには音楽や映像のネットワーク配信など日々進歩し、私たちの生活をより豊かなものにしていきます。そして、これらのコンテンツは、xDSL、FTTx^(注9)などの固定ブロードバンドサービスからだけでなく、さまざまなデジタルワイヤレス通信技術を用いた携帯端末からも提供される時代となりました。さらに、固定通信端末と携帯端末が融合(FMC: Fixed Mobile Convergence)したシームレスなサービスも実現しつつあります。アンリツは、最先端のデジタルワイヤレス技術で通信サービスの発展に貢献しています。

^(注9) FTTx (Fiber To The x): 家庭、マンション、企業等に光ファイバーを直接引くことで実現する超高速アクセス技術の総称。

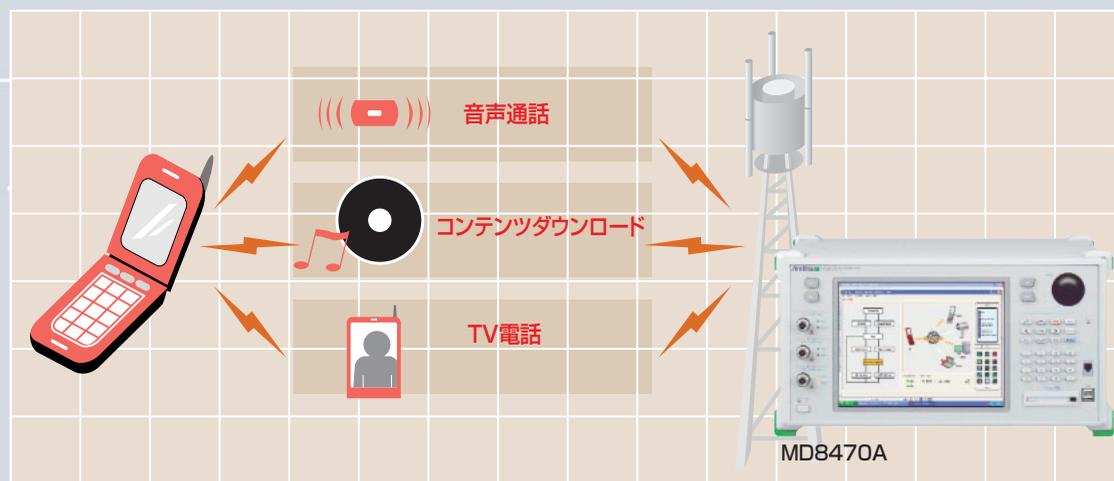
第3世代携帯端末への貢献

携帯端末で大量のデータを高速・低コストで通信するために開発された第3世代(3G)移動通信方式(W-CDMA、CDMA2000)の加入者数は、世界的に増加しています。特

に、W-CDMAは2005年の1年間に加入者数を3倍に増やしました^(注10)。現在W-CDMAは、データダウンロードの通信速度を高速化したHSDPAと呼ばれる第3.5世代(3.5G)の高速パケット伝送方式に進化しています。米国、欧州、韓国の一部では既にサービスが開始され、日本でも2006年中にサービスの開始が予定されているなど、世界的な広がりを見せています。アンリツは、HSDPA端末の規格をフルサポートする計測器により、開発・検証作業の効率化に貢献しています。

また、より高度な技術でさらに魅力的なコンテンツを配信しようとする事業者間の加入者サービス競争は、メーカーによる新たなチップセットや携帯端末の開発を後押しし、この分野で世界最先端の技術力を持つアンリツへの期待は高まっています。アンリツは、音声通話・コンテンツダウンロード・TV電話などの携帯端末アプリケーション機能試験を1台で実現する基地局シミュレータ(下図、イメージ図)などを提供しています。

MD8470A シミュレーションイメージ図





基地局や中継器など携帯インフラへの貢献

アンリツは、携帯端末だけではなく、基地局や中継器などのインフラに対する計測ソリューションプロバイダーとしても業界をリードしています。基地局などのケーブルやアンテナの品質を試験するために用いられるバッテリー駆動の小型計測器「サイトマスタ」や、送信機から出力される電波や特定の地点の電波環境を調査する「スペクトラムマスタ」などのハンドヘルド型計測器は、従来の据え置き型の計測器（重さ20kg前後）と遜色のない高い基本性能を維持しながら、1/10程度への小型軽量化を実現しており、基地局建設・保守現場での作業効率改善と基地局の品質維持に貢献しています。さらに、基地局の建設・保守時には、通信キャリアによりそれぞれ異なった通信規格に基づき送信信号を解析する必要がありますが、このようなニーズに対しても、携帯端末開発用計測器で培った先端技術を活かして、ハンドヘルド型基地局テスタを開発し、お客様を強力にサポートしています。

無線LAN、WiMAX、そしてデジタル放送への貢献

アンリツのワイヤレス計測ソリューションは、携帯電話ネットワークにとどまりません。携帯電話とともにデジタルワイヤレス通信手段として脚光を浴びているのが、無線LANとその発展型であるWiMAXです。アンリツは、ベクトル信号発生器やシグナルアナライザなど、WiMAX関連モジュールの信号解析ソリューションも提供していきます。

アンリツは、移動通信で蓄積した技術を活かして、デジタル放送に関するソリューションにも取り組んでいます。2006年、日本では地上デジタル放送を携帯電話端末向けに送信する「ワンセグ」が商用化されました。欧州においても、同様なサービスの2007年からの本格商用化に向けた準備が着々と進んでいます。この日・欧のデジタル放送向けに、アンリツは他社に類をみないハンドヘルド型のデジタル放送フィールドアナライザを提供し、事業領域の拡大を図っています。

さらに、世界最大の携帯電話加入者数を誇る中国では、第3の3G規格であるTD-SCDMAの開発が本格化しています。アンリツは、いち早く中国の研究機関と共同開発を進め、携帯端末の開発に寄与する製品を発売しています。

3G/3.5Gの世界各国への普及によって、これまでの端末開発用だけでなく、端末製造用計測器の需要も喚起されてきています。アンリツは、GSMなどの第2世代から第3.5世代までのあらゆる通信方式に対応した拡張性のある製造用計測器を提供しており、さらに、1台で同時に2台の携帯端末を試験できる計測器を提供するなど、ユーザーの生産性向上に貢献しています。

(注10) GSM Worldにおける加入者数統計による。

オールIPネットワーク対応計測ソリューション

アンリツは、社会インフラであるネットワークのIP化に、通信機器およびネットワークの品質測定ソリューションを提供します。

通信事業者は、基幹通信網をオールIP化する次世代ネットワーク(NGN)へ向けて大きく舵を切っています。これは、これまで100年かけて構築してきた回線交換型の電話網から、IPベースのネットワークへ向けた大変革が始まることを示しています。アンリツは、この通信ネットワークを構成する光ファイバー、ルーター、伝送装置などの計測、ネットワークの品質測定を通して社会の安全・安心の向上に貢献しています。

アクセスネットワーク

アクセスネットワークは、年率30%以上の割合で増加しているブロードバンド加入者の伸び^(注11)と、トリプルプレイと呼ばれる音声・データ・映像の統合サービスの拡大に伴い、通信容量の広帯域化が進んできました。今後、映像の高精細化により、アクセスネットワークの光ファイバー化は、通信事業者だけでなくケーブルテレビ事業者などへ

拡大していきます。アンリツは、光ファイバーの敷設や開通試験に必要となる、光ファイバー障害検出・IP接続試験機能を備えたハンドヘルドタイプの計測器「アクセスマスタ」などにより、世界の光アクセスネットワークの品質向上とブロードバンドの普及に貢献しています。

また、通信事業者は、トリプルプレイサービスに携帯電話サービスを融合させたグランドスラムサービスを提供しようとしており、携帯電話ネットワークのIP化が急速に進んでいきます。このような動きに対しても、アンリツは、ワイヤレス計測事業とIPネットワーク計測事業で培った経験と知識を融合させ、新たな計測ソリューションを創造しています。

メトロ・コアネットワーク

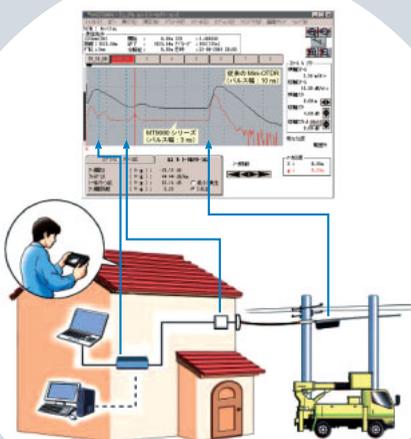
メトロ・コアネットワークでは、トリプルプレイの拡大に伴い、急速にトラフィックが増加しています^(注12)。また、ファイル共有ソフトに代表されるP2P (Peer to Peer)により、トラフィックのさらなる増加も予想されます。通信事業者は、このトラフィックの伸びを支えるために、ネットワークの広帯域化と高速化を継続して進めていきます。

また、音声や映像など、データ損失や遅延などによる影響が大きいミッションクリティカルなトラフィックが増え、高品質なサービスを提供するために、通信帯域や伝送遅延などの保証が新たに求められています。

アンリツは、情報通信技術と超高速デジタル伝送技術を融合した最先端の計測ソリューションにより、ネットワークインフラの品質を支えるとともに、事業を拡大していきます。

^(注11) OECD統計(2001年～2005年平均伸び率)による。

^(注12) 日本の代表的なインターネットエクスチェンジ(IX)であるJPIXのトラフィック統計では、2001年から2005年末までの5年間で約30倍に伸びている。



サービスアシュアランス事業の拡大

アンリツは、ネットワークの障害監視だけでなく、多様化するサービス品質管理ソリューションを提供し、安全・安心で快適な社会の実現に貢献します。

通信サービスは、トリプルプレイなどの加入者サービスの多様化が進んでおり、また、通信ネットワークは、これまでサービスごとに独立していたネットワークの統合が加速しています。この結果、サービス品質の維持・管理を行うためには、より専門的な知識が必要となっています。アンリツは、2005年のNetTest社（現Anritsu A/S）の買収により、この品質保証（サービスアシュアランス）事業に参入しました。

ネットワーク モニタリングサービス



ネットワークモニタリング

これまでの通信サービスは、電話に代表されるように、専用のネットワーク上でサービスを提供してきました。しかし、トリプルプレイやグラッドスラムサービスは、共通のネットワーク(NGN)の上で提供されるようになります。このため、ネットワークの障害が社会生活や経済活動に及ぼす影響はますます大きくなってきます。アンリツは、ネットワークを流れるデータトラフィック量のモニタリング・分析サービスのリーディングサプライヤとして、今後も社会インフラである通信ネットワークに対して、最適なモニタリングソリューションの提供に取り組んでいきます。

オールIP化への対応

これまでIPを使ったサービスは、ネットワークの公平利用をコンセプトとしたTCP/IPの制約上、ベストエフォートで提供されてきました。しかし、今後は、トリプルプレイによる動画や音声など、ミッションクリティカルなサービスもIPにより提供されます。そして、それぞれに適した通信品質の保証が求められます。このため、世界の通信事業者は、顧客やサービスごとに異なるサービス品質の管理(SQM: Service Quality Management)を必要とするようになります。アンリツは、オールIP化時代に対応したSQMなどの最先端ソリューションを提供し、安全・安心で快適な社会の実現に貢献します。